ニューヨーク補習授業校だより

平成２７年度　第９号
校 長　青木　正彦

「子どもたちの 65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。」キャシー・デビッドソン教授（ニューヨーク市立大学大学院）。「今後 10～20 年程度で、約 47%の仕事が自動化される可能性が高い。」マイケル・オズボーン准教授（オックスフォード大学）。「2030 年までには、週 15 時間程度働けば済むようになる。」ジョン・メイナード・ケインズ（経済学者）。いずれも専門分野が違っているにも拘らず、現在の子どもたちが向き合わなければならない未来社会の予測が一致しています。そのような変化の激しい社会を生き抜く子どもたちには、どのような教育が求められているのでしょうか。

文科省は次の学習指導要領の変遷に向けて、「情報化の進展や絶え間ない技術革新等により、大きく変化する社会に向かって、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていけるような、高い志や意欲を持つグローバル人材の育成」を柱とした教育を掲げています。

グローバル人材というとすぐ「英語が使える人」とイメージしますが、それはむしろ当たり前の条件で、「価値観の違う人々とチームを組みながら、課題を解決する力を持つ人」の方が適切な表現のように思います。そう考えると、大事なのは、バイリンガルよりもバイカルチャラルな教育環境が理想的ではないかと思えるのです。

本校の児童・生徒は、年間の 43 回の土曜日を本校で過ごし、平日はアメリカの現地校に通っています。異文化間を毎週移動しながら、バイリンガルでバイカルチャラルな経験を積み重ねております。楽しいだけでなく、大変さも感じているとは思いますが、そのことをものともしない様子で、本校の生徒は明るく、健やかで、懸命に学習に励んでおります。本校で育つ子どもたちは、これからの来るべき未来社会を生き抜く人となり、同時にリーダーとしての資質を備えた人になるに違いないでしょう。

本校は、今年で創立55年目を迎えます。伝統の上にも、常に最先端の日本の教育を提供する本校を、今年もどうぞ宜しくお願いいたします。